

ま え が き

幼稚園において子ども達が学んでいる姿には他の学校種にはないような趣があります。この学びにかかわる幼稚園教員にとっては固有の工夫が必要になります。ときには造形的に不思議なものにみえても夢中になって製作する姿があったり、ときには自分達で相談してルールを決めて走ったり動き回ったりする姿や、想像力を膨らませながらごっこ遊びをする姿を随所で目にします。こうした姿が豊かに展開されるようなカリキュラム設計やカリキュラム構成が幼稚園教育の醍醐味といえます。小学校以降にあって一般化する教科編成を中心としたカリキュラム設計や、達成目標を設定して自覚的に学びに取り組む姿とは大きな違いがあります。いうならば、幼稚園では小学校以降に開始される自覚的な学びの素地となる土台づくりに目が向けられており、この土台をいかに豊かに耕していくかが、その後の自覚的な学びを大きく支えていくものとみえています。

ところで、幼稚園での子ども達の過ごし方や子ども同士のかかわり方をみていると、これまでどんな生育の歩みがあったのか、またどのような生活環境に今現在あるのかが透視できるように思われます。幼児期の教育は、幼児が生活するすべての場において行われる教育の総称であるといわれる所以です。家庭では、愛情やしつけなどを通して成長の最も基礎となる心身の基盤が形成され、地域社会では、近所の人や自然との触れ合いを通して豊かな体験が生まれ、そして幼稚園では、教師に支えられながら、集団活動を通して、家庭では体験できない環境に触れ、幼児期なりの豊かさを育むことができます。家庭や地域での生活経験と幼稚園での生活が相互にうまく循環していくことで望ましい発達の姿が生みだされていくこととなります。

本園では、幼児期の特性をふまえながら一人一人がこの時期にふさわしい幼稚園での生活を体験できるように、これまでに教育課程「学びをつなぐカリキュラム」を策定し、指導計画「自分づくりを支える生活プラン」を編成してきました。こうしたカリキュラム全体の枠組み構成についての研究成果をベースにしながら、今年度は幼児の「自分づくりの姿」に焦点を据えて、具体的な事例を追跡観察しています。事例で取り上げる幼児が集団生活を体験するなかで徐々に変容していく姿を通して、幼児期の発達のプロセスをどう読みとることができるのか、また自分づくりを支える「環境の構成」と「教師の援助」についてどう考えていけばよいのか、こうした問いを立てて考察しています。

今年度は、本園において6月と11月の2回にわたって保育を公開いたします。これまでの研究成果を含めて、私達の取り組みについて様々な観点からご覧いただければ幸いです。あわせて、どうぞ忌憚のないご意見、ご指摘、ご感想をいただきますようお願いいたします。

最後に、熱心なご指導をいただきました諸先生方をはじめ、ご多用の中ご来会いただきました皆様に心より御礼を申し上げ、ご挨拶といたします。

平成24年6月

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園長 田邊 俊治